

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス STAY GOLD		
○保護者評価実施期間	R5 年 9 月 1 日		R7 年 1 月 31 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 12名
○従業者評価実施期間	R5 年 9 月 1 日		R7 年 1 月 31 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5名	(回答者数) 5名
○事業者向け自己評価表作成日	R7 年 2 月 3 日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	多様な活動を通じた支援	子どもたちが楽しみながら学べる多様な活動を提供しています。これらの活動(お仕事体験)を通して、お仕事のプロセスや大変さ、アイデア(ひらめき)、達成感を学ぶことを目的としています。子どもたちが、楽しみながら学べる環境を整備しています。これにより、子どもたちが主体的に活動に取り組む姿勢も育てています。	各々の職員がスキルアップ(自己研鑽)を通じて、活動や支援の質を高める取り組みを継続的に行っています。
2	将来を見据えた支援	活動内容は単なる遊びにとどまらず、子どもたちが「仕事」や「役割」を体験できる場を提供しています。これにより、社会性やお金のリテラシーを学び、将来の自立に向けた基礎を築く支援につながります。めだか育成や水耕栽培など、自然や実生活に触れる活動を取り入れることで、子どもたちに達成感や責任感を持たせる工夫もしています。就労を見据えて、工場見学(職場体験)、買い物、公共交通機関の練習(長期休みに限る)などの体験も行っています。	各学齢期に応じた「社会的マナー・ルール」や「お金のリテラシー」などを伝えています。
3	商品の製造から販売までの実践的な体験ができる	実際に商品を製造(養殖)して、直売所や法人内の施設で育てた野菜やメダカなどを販売しています。実際に売り上げたお金はすべて子どもたちの活動費(おもちゃ、飲食、イベント等)にまわして、子どもたちが主体となって使い道を計画・立案し、みんなで協力して目標達成できるように行っています。	具体的な使い道(目的)を決め、みんながその目標に対していくらか必要になるかを見据えたうえで、商品を継続的に安定供給できるように職員と子どもも協力していきます。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	活動の幅広さによる負担	多様な活動を提供しているため、職員の専門性や準備にかかる負担が大きいです。特に、野菜の栽培やメダカの養殖、写真・動画編集などの分野では、継続的な知識のアップデートが必要です。多様な活動を提供する中で、質を維持しながら継続するためのリソース(人材、資金、時間)の確保が課題です。	準備時間の確保:子どもたちが来るまでの空き時間を利用して、各々がスキルアップや準備の時間に充ててもらい、活動の質の向上、職員の負担軽減を図っています。
2	利用者層のニーズの多様性	子どもたちの支援を行う中で、個々のニーズに応じた対応が求められるため、支援内容の調整が難しい場合もあります。障がいの特性や程度が異なる子どもたちに対し、個別に対応するための体制強化が必要です。	活動の多様化と柔軟性:子どもたちの興味やニーズに応じて、新しい活動を検討するなど、柔軟な対応を行っています。専門性の向上:専門職種がいらない中、学習面や感覚面に課題を抱えている子ども達の支援を行う必要があるため、多職種と連携し、情報共有を行ったり、教えてもらったりして対応しています。
3	保護者や地域住民とのさらなる連携	地域住民や他の福祉施設との連携をさらに深めることが課題となっています。	保護者や地域との協力体制の強化:見学会やイベントを通じて、保護者や地域との連携を深め、支援の質を向上させる取り組みを今後行っていく予定です。一過性のイベントではなく、継続的な活動を通じて、保護者や地域住民の関与を高めていきます。